

## 1. ご挨拶

猛暑の続いた今年の夏でしたがやっと少し秋風を感じるようになりました。  
 会員の皆様には各々ご活躍の事と思います。  
 平成20年7月末に NPO法人「ワイルドライフ」の活動を開始し 2年少々経ちました。  
 この間会員の皆様のご協力のもと 4回にわたり各地で「ケニアの自然動物写真展」を開催出来ました。  
 NPO法人「ワイルドライフ」の今後の活動や最終目標を構想している所です。  
 この会報には現在考えている事等を記載しますが会員の皆様のお考えをぜひお寄せいただきたいと思います。  
 そしてそれを今後のこの会の運営の参考にさせていただきたいと考えております。  
 今までの活動報告をまとめて「NPO法人 ワイルドライフ 会報 (No.1)」を作りました。

## 2.活動実績

| 回 | 開催日                  | 開催場所                            | 開催方式          | 参観者数<br>(延 人) | 特記事項                               |
|---|----------------------|---------------------------------|---------------|---------------|------------------------------------|
| 1 | 平成20年<br>11月19-25日   | 新宿パークタワー                        | 展示            | 1,800         | 新宿区教育委員会協力                         |
| 2 | 平成21年<br>4月26日-5月31日 | 宮城県栗原市伊<br>豆沼・内沼サンク<br>チュアリセンター | 展示            | 3,300         | 毎日新聞 県北ニュース<br>河北新聞 NHK 仙台テレビ<br>他 |
| 3 | 平成21年<br>9月3日-9月9日   | 高崎市高崎<br>シテイギャラリー               | 展示            | 800           | 毎日新聞 JCOM群馬<br>群馬マリオン 他            |
| 4 | 平成22年<br>4月29日-6月20日 | JICA横浜<br>国際センター                | 展示 講演会<br>演奏会 | 23,524        | JICA横浜 後援<br>国米倉庫 後援               |
| 5 | 平成23年<br>未定          | 離島(予定)                          | 展示            | ---           |                                    |

上記「活動実績 4」 JICA横浜 国際センター の講演会 演奏会についてご紹介いたします。

「野生動物写真展」に合わせて 下記の講演会演奏会を開催し大変好評でした。

- (1)5月3日4日 ①「現地報告」写真家 B.T.キム氏  
 ②「古代魚の話」魚類学者 音楽家 末広陽子氏  
 (2)5月5日 ①「アフリカの打楽器」演奏と参加者の体験会 音楽家 坪根剛介氏  
 ②「ケニアにおける野生動物の保護」ケニア大使館一等書記官 ドロシー・ンティワ氏  
 (3)6月6日 ①「アフリカを取り巻く状況とJICAの取り組み」JICA横浜国際センター次長 松本淳氏  
 ②「ケニアにおける野生動物の保護」ケニア大使館一等書記官 ドロシー・ンティワ氏

講演内容を詳しくお知りになりたい方は「NPO法人 ワイルドライフ」のホームページにてお読みください。  
 ホームページ [http://www.geocities.jp/npo\\_wildlife/](http://www.geocities.jp/npo_wildlife/) 今までの活動をYouTubeで見することもできます。

## 3.NPO法人「ワイルドライフ」の今後の活動目標についてご意見をお寄せください。

ケニア大使館一等書記官 ドロシー・ンティワ氏の話では  
 「孤児」になったアフリカケニアの野生動物の里親になってほしい。」とか  
 「草原の水不足対策」(水不足で家畜のえさが不足する。住民が家畜を自然保護区である野生動物の生活圏に入れる。家畜が野生動物に襲われる。次に野生動物が住民に殺されるという事で野生動物の絶滅に繋がってきている。牧畜用の草地を育てる工夫も考えられる。)  
 等が野生動物保護に関する活動例として挙げられていました。

NPO法人「ワイルドライフ」でもやれることはなんでしょうか？色々な意見がでました。

(1)ケニアの野生動物の里親になる。この案は、ケニア政府の公社であるKWS (Kenyan Wildlife Services) との提携が前提になります。また、継続的な経済支援が必要になります。

子供達が自分たちの力で里親になる場合、ポストカードを買ってもらい、その収益により経済的な支援をすることができるはず。しかし、人数を集め、小さなお金を大きくまとめて支援金に育てる力が必要。まず、KWSのHPを通じてこの提案を研究して、どこまで摺合せできるかを研究することから始めるべき。

(2)ケニアのサバンナの砂漠化を防止する方法。大きな課題にはとても取り組めないという意見もでした。「上総堀」(かずさぼり)は既にJICAの手により紹介されているとのこと。ケニアには地下水は十分にあるはず。雨が降らないなら、地下水をくみ上げ飲料水、灌漑用水、草原を豊かにする散水に使うことが考えられます。

しかし水質はフッ素(F)含有量が多いとのこと。飲料水に適さないとしても草原の散水には問題ないはず。

工事費用が多額になるのでJICAや他のスポンサーとの提携が必須条件です。

大規模なプロジェクトなので、即着手できるわけではありませんが、目標を高く持ち、研究を重ね、問題意識を持ち続けることが大切。

#### 4.年会費納入のお願い

平成22年度の年会費の納入をお願いします。

活動費用として会員皆様方のご協力をお願いします。納付用紙を同封させていただきました。

ケニアってどんな国？

国旗：1963年にケニア共和国が英国より独立を果たした時、国旗を定めた。これは当時のKANU党 (kenya African National Union)の旗が元になっている。同党は、独立運動を戦い指導した。

デザインはマサイ族の戦士の盾と交差した槍が自由の防衛を象徴している。

植物相と動物相：海岸地帯はマングローブの湿地帯と椰子の木々で縁どられている。内陸の平地は、草原と低い灌木に覆われているが、北部の多くは、半砂漠である。森林と草原は、南西部の高地に見られる。ケニアは多様な野生の動物に恵まれており、その自然公園と保護区には旅人を魅了して止まないものがある。

主な部族：Ethnic Groupは、キクユ(Kikuyu)21%, ルヒヤ(Luhya)14%, ルオ(Luo)13%, カムバ(Kamba)11%, カレンジン(Kalenjin)11%, 少数部族を加えると40部族以上あるといわれている。

言語：スワヒリ語(Swahili)と英語の両方が公用語である。

宗教：キリスト教(ローマカソリック27%, プロテスタント19%, 他27%) 伝統的な宗教等19%, イスラム教6%。

通貨：ケニアシリング(交換レートは2010年9月現在 1US\$= 80.9 Ksh

人口：2008年現在 3,980万人

面積：58万km<sup>2</sup> 人口密度 55人/km<sup>2</sup>

主要な都市：首都ナイロビ、  
他にモンバサ、キスムなど



発行日：平成22年9月30日

発行元：NPO法人「ワイルドライフ」

責任者：菊池 徹（代表）

住所：〒277-0813千葉県柏市大室1086-68

電話：04-7199-9033

eメール：tokiku2002@yahoo.co.jp